

様式第二号の九（第八条の四の六関係）

（表面）

産業廃棄物処理計画実施状況報告書		令和2年7月8日	
鹿児島県知事 三反園 訓 殿			
報告者			
住 所 鹿児島市伊敷5丁目9番8号			
氏 名 株式会社 植村組			
代表取締役 植村 一			
電話番号 0996 (22) 3131			
産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和元年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。			
事業場の名称	株式会社 植村組		
事業場の所在地	鹿児島県薩摩川内市五代町 2277 番地		
事業の種類	建設業 一般土木建築工事業		
産業廃棄物処理計画における計画期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日		
産業廃棄物処理計画における目標値			
項目	目標値	項目	目標値
排出量	11420.0t	全処理委託量	11420.0t
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0t	優良認定処理業者への処理委託量	3420.0t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0t	再生利用業者への処理委託量	8000.0t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0t	認定熱回収業者への処理委託量	0t
自ら埋立処分を行う産業廃棄物の量	0t	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t
※事務処理欄			

（日本工業規格 A列4番）

(第3面)

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物の処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類：アスファルト、コンクリート、その他がれき類、廃プラ、紙くず、木くず、建設汚泥、金属くず等)

有償物量

不要物等発生量

排出量
① 8,945t

② 自ら直接再生利用した量
t

③ 自ら直接埋立処分した量
t

項目	実績値
① 排出量	8,945t
②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪+⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳+㉑+㉒+㉓+㉔+㉕+㉖+㉗+㉘+㉙+㉚+㉛+㉜+㉝+㉞+㉟+㊱+㊲+㊳+㊴+㊵+㊶+㊷+㊸+㊹+㊺+㊻+㊼+㊽+㊾+㊿	t
⑤ 自ら熱回収を行った量	t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	t
③+⑤ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t
⑩ 全処理委託量	8,945t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	2,650t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	6,295t
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t

④ 自ら中間処理した後の残さ量
t

⑦ 自ら中間処理により減量した量
t

④ 自ら中間処理した量
t

⑤ ④のうち熱回収を行った量
t

⑧ 自ら中間処理した後再生利用した量
t

⑨ 自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
t

⑩ 直接及び自ら中間処理した後の処理委託量
8,945t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量
2,650t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量
6,295t

⑬ ⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量
t

⑭ ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量
t

単位：トン

産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)処理計画実施状況報告書 廃棄物の種類が2品目以外ある場合この表を使用してください

別添内訳書

廃棄物の種類	数字(t)													合計	実施値
	コンクリート から	アスファルト から	その他 がれき	ガラス 陶磁器	廃プラ	金属	混合	汚泥	紙くず	木くず	廃石膏 ボード	廃石綿等			
① 排出量	3199	3095	2	3	140	23	7	1006	38	1407	24		8945	8,945	
② 自ら直接再生利用した量															
③ 自ら直接埋立処分した量															
④ 自ら中間処理した量															
⑤ ④のうち熱回収を行った量(内訳)															
⑥ 自ら中間処理した後の残さ量															
⑦ ④-⑥自ら中間処理により減量した量															
⑧ 自ら中間処理後再生利用した量															
⑨ 自ら中間処理後、自ら埋立処分した量															
⑩ 直接及び自ら中間処理した後の処理委託量	3199	3095	2	3	140	23	7	1006	38	1407	24		8945		
⑪ ⑩のうち、優良認定処理業者への処理委託量			2	3	140	23	7	1006	38	1407	24		2650		
⑫ ⑩のうち、再生利用業者への処理委託量	3199	3095											6295		
⑬ ⑩のうち、熱回収認定処理業者への処理委託量															
⑭ ⑩のうち、熱回収認定処理業者以外の熱回収を行う業者への委託量															
参考1 ⑩のうち、焼却施設への処理委託量(⑩の内訳)									38				38		
参考2 ⑩のうち、焼却以外の中間処理施設への処理委託量(⑩の内訳)	3199	3095	2	3	140	23	7	1006		1407	24		8907		
参考3 ⑩のうち、埋立処分業者への処理委託量(⑩の内訳)															

自動計算 データーの場合
入力不要

※ガラコン=ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(廃石膏ボードもガラコンで記入してください)

※建設系の廃棄物で、品目ごとの仕分けが不可能な場合は、建設混合廃棄物として記入してください。

◆参考1~3は、どのような業者に委託されているかを聞かれます。(⑩処理業者への委託量=参考1+参考2+参考3)

◆mは、トンに換算記入してください (換算係数は、ホームページ中の「換算係数」を参考にしてください。)